

(1) 保健体育科における体育理論の実態に関する研究

—教員養成課程における開講科目を対象とした調査から—

川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康体育学専攻修士課程 ○香西 庸希

川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科 米谷 正造, 中川麻衣子

【背景・目的】

中学校・高等学校保健体育科では、知識を保証する領域である「体育理論」を全学年で必修の領域として取り扱っている。しかし村瀬（2015）は、現職教員に対する質問紙調査から中学校現場での体育理論実施率が低かったことを報告している。

また、教員養成段階の課題として、佐藤（2015）は大学教員の立場から、大多数の学生は体育理論の授業を実際に受けた経験がないために、体育理論の模擬授業を学生自身で計画する際の授業イメージがないことを述べている。つまり、体育理論について教員養成課程における現状は明らかにされていない。

そこで、本研究では中学校・高等学校教諭（保健体育）の教員養成課程がある大学の講義概要（以下、シラバスと略記）を調査し、体育理論に関する授業開講状況並びに模擬授業の実施の有無を明らかにすることを目的とした。

【方法】

本研究は、「中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）」を取得することができる176大学のシラバスを対象とした（<http://www.mext.go.jp/component/>

[a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/29/1287060_1.pdf](#)）。調査項目は、「開講の有無」「開講科目」「模擬授業の実施の有無と模擬授業実施回数」である。調査期間は平成30年8月から平成31年3月である。

【結果・考察】

シラバスに体育理論に関する内容の記載があった大学は、全体の77.3%（133大学）であった。このことから多くの教員養成課程では、体育理論に関する講義が開講されており、体育理論を学習できる場が確保されていると考えられる。また、体育理論に関する模擬授業の実施状況は、44.4%（59大学）であった。つまり、体育理論に関する講義は開講されているが、模擬授業による教員として必要な資質・能力向上を図る実践的指導力につながる学習は、充分に行われていないことが考えられる。

【今後の課題】

教員養成課程における体育理論に関する内容のシラバスを閲覧することはできたが、実際の取り組みは明らかとなっていないことから、実際の実施内容について検討する必要がある。